

答え合わせ・解説

問1	答え 1 明	琉球王国は中国の明に対して朝貢を行い、臣下としての礼をとることで正式な貿易を認められました。これにより中国の絹織物や陶磁器を安定して入手し、それを他のアジア諸国へ運ぶ貿易体制を確立しました。
問2	答え 3 首里	1429年に尚巴志が三山を統一して成立した琉球王国は、現在的那覇市にある首里に都を置きました。首里は、中国から受けた冊封（朝貢貿易）や、地理的利点を生かした東南アジア・日本との中継貿易によって経済的に大きく発展しました。他の選択肢である十三湊は中世の津軽の貿易拠点、漢城は朝鮮王朝の都、大都是元（モンゴル帝国）の都を指します。
問3	答え 1 公家や寺社などの権力者に税を納めることで、商品の販売や製造を独占する権利を得ていた。	室町時代の商工業者は、自分たちの営業を守るために「座」という団体を結成しました。彼らは本所（ほんじょ）と呼ばれる公家や寺社といった権力者に保護料として税を納める代わりに、関所の通行料（関銭）の免除や、特定の商品の独占販売権といった特権を得ていました。これにより、他の業者の参入を防ぎ、安定した利益を確保しようとしていました。
問4	答え 1 法隆寺 → 東大寺 → 中尊寺金色堂 → 金閣	まず飛鳥時代（7世紀）に聖徳太子によって法隆寺（西院伽藍）が建立されました。次に奈良時代（8世紀）に聖武天皇によって東大寺が建立されました。続いて平安時代後期（12世紀）に、東北地方の奥州藤原氏によって中尊寺金色堂が建立されました。最後に室町時代（14世紀末）に、足利義満によって金閣（鹿苑寺）が建立されました。この順序は、日本の仏教建築の変遷と各時代の有力者の交代を反映しています。
問5	答え 1 金閣や銀閣の建築に代表されるように、公家の優雅さと武家の精神が組み合わさった。	足利義満が建立した金閣は公家文化と武家文化の融合を象徴し、後の足利義政による銀閣は、禅宗の精神を取り入れた書院造を特徴としています。これらは室町時代の「公家文化と武家文化の融合」を具体的に示す事例です。選択肢にある町人文化（浮世絵など）は江戸時代、遣唐使の影響は飛鳥・奈良文化、文明開化は明治時代の事象です。
問6	答え 1 管領	室町幕府において将軍に次ぐ最高職であり、将軍の補佐役として幕政を統括したのが管領です。足利氏の一門である細川氏、斯波氏、畠山氏の有力な守護大名が交代で任命される仕組みとなっていました。鎌倉幕府の執権や江戸幕府の老中と、それぞれの時代の中心的な役職を区別することが重要です。
問7	答え 1 中国の模倣であった水墨画を、日本の風景や感性に合わせた独自の芸術へと高めた	雪舟が登場するまでの日本の水墨画は、中国の宋や元の画風を模倣する段階にありました。雪舟は実際に明へ渡って本場の技術を吸収した上で、日本の山河にふさわしい構図や、太く力強い輪郭線を用いる独自の画風を確立しました。これが、日本における水墨画の自立と完成とされています。
問8	答え 1 鎌倉幕府を滅ぼすのに協力した足利尊氏が、後に離反して光明天皇を擁立した。	建武の新政に不満を持った武士たちの支持を集めた足利尊氏は、後醍醐天皇に反旗を翻しました。尊氏が京都を占領して光明天皇を立てたのに対し、後醍醐天皇は吉野（奈良県）に逃れて自らの正統性を主張したため、日本は南北朝時代という分裂期に突入することになります。
問9	答え 1 農民たちが『徳政』を求めて蜂起し、京都の質屋や酒屋を襲って借金の証文を破棄させた。	正長の土一揆は、日本で最初の大規模な土一揆とされます。近江の馬借（運送業者）らが「徳政」をスローガンに掲げて蜂起し、京都の金融業者である酒屋や質屋、土倉を襲撃しました。彼らは実力で借金の証文を奪い取ったり破棄したりすることで、事実上の債務消滅を狙い、幕府に法令の発布を迫りました。他の選択肢は、鎌倉時代の永仁の徳政令や、江戸時代の政策・運動の説明です。